インド・デリー旅行記（2023/12/4～8）

デリーは初めての訪問地である。1980 年代にボンベイ（現ムンバイ）とマドラス（現チェナイ）を銀行勤務時代に出張したことがある。当時は FAX もなくテレックスという細長いテープに記号を打刻して海外と交信していた時代だ。また石油危機で原油が高騰し中近東ビジネスが注目され海水淡水化プラントの輸出が活況を呈していた。その為インドや中近東の銀行とのコルレス契約を結ぶための出張が多かった。

さて HIS インド旅行（デリー・アグラ・ジャイプール世界遺産巡り）を申し込んだのは 8 月初旬だった。そしてインド入国にビザが必要だった。代行業者（HIS も代行可）に委託するか自分で取得するか方法は２つあったが、米国 E ビザを自分で取得していたこともあり自ら取る事にした。インドは IT 先進国でありビザ取得はウェブ申請になっていた。しかし 2 つ問題があった。①代行業とインド政府なのか不明確だった。友人も自らビザ取得申請したが実は代行業者であった。ウェブ依頼の最後に＄１２０程度の請求になって騙されたような印象をもったようだ。私も同じ経験したが途中で気づき中止した。②パスポート写真をＰＤＦする時、サイズが実物とほぼ同じでないと作動しないことだ。E ビザ取得のための注意点は以下の通りだ。

１，　インド政府の home ページから e ビザ申請。PC によるオンライン申請が良い。
２，　代行業者委託 2 万円程度（114 ドル～）。インド政府と間違い易いので要注意
３，　手数料　＄25 ドル（30 日観光ビザ指定）　医療ビザ、ビジネスビザは異なる。
４，　自画像写真とパスポートをスマホで撮影、PC に送付しファイル化する。
５，　事前に旅行会社のインド事務所と国内事務所の（住所と電話番号）が必要
６，　最近の写真を撮ってファイルする項目ある。
７，　パスポート写真をほぼ同じ大きさで PDF にする必要がある
８，　申請者の宗教、住所、仕事、職業、過去訪問歴、両親、配偶者の名前と本籍の記載

最後の項目はイスラム過激派などのテロリストの入国を強く警戒しているからと思われる。

１，　羽田空港午前　（4 日）

１１時４０分発の JAL 航空のチェックインカウンターは長蛇の列だった。前日に事前チェックインをしたので空港にある機械によるチェックインで済ませる予定だったが、航空チケットが出てこない。結局 JAL カウンターに並ぶことになった。しかしスマホに届いた確認メールに添付されたコード（縦１cm横４cmの記号）が実はチケットであった。電子化のスピードには驚くばかりだ。また入国の手荷物検査機器が更に高性能で大型化しており非常にスムーズに搭乗ゲートに行けた。

４００人近い座席はほぼ満員だった。仏教関係の団体ツアー客がいた。インドはヒンズー教徒が８０％とのことだが仏教の聖地であるワラーナシ（旧バナーラス）への旅行客も多い。昨年のトルコ旅行の時より日本人客が多い印象だった。搭乗後まもなく食事が出たがインド料理（カレー）を選択した。動画サービスも満足のいくものだった。最近の映画を２本観た。羽田から韓国、中国、経由してヒマラヤ山脈を右にほぼ直線で進んだ。座席が右側だったので世界一のエベレスト山が美しく見えた。この時機内アナウンスでもヒマラヤの絶景を案内していた。デリー空港には現地時刻夜６時

半に到着。時差は３時間半。搭乗時間は約９時間だった。

２，デリー空港の夜とホテル（4 日）

デリー・インディアナ空港は近代的だった。デリーの人口は約２千万と言われているのでそれに相応しい印象だった。ところが入国手続きに長時間かかった。私はＥビザなのでその指定ゲートに並んだ。このゲートは非インド人のＥビザ専用だった。同行の友人は紙のビザだったので別のゲートに並んだ。さてＥビザの入国審査には人が多いことと審査が慎重で時間をかけていた。

待機待ちの２人連れの日本人と会話した。この２人はインド絵画教室に通う方で７０歳近い女性と男性だった。絵画教室の先生が最近没したが「ガンジス川への散骨」が遺言だったそうだ。その為インドのワラーナシに赴くそうだ。大変興味深い話だった。

さて５０分近く並んだ後やっとのことで入国審査窓口に立った。パスポートとビザを提出したらあっという間にパスとなった。前にいた外国人は長い会話や写真や指紋登録をしていたのに自分にはなかったことに驚いた。ここではっと気づいた。インドは近隣（パキスタンと中近東）からの入国が多く、その中に隠れているイスラム過激派を非常に恐れているそうだ。この１０数年イスラム過激派のテロ事件が多発している。イスラム教徒はインド人口の１５％（約２億人）もいるのでイスラム教を排除するものでは決してないが過激派への警戒は厳重だ。因みにインドでのホテル入室時の検査は厳しい。

入国審査を終えて荷物受け取り場に向かった。JAL 便搭乗者で荷物受取が遅いので空港係員が待機していた。親切な対応を受け荷物を取って EXIT に出ると友人が心配そうに待っていていた。友人の隣には旅行ガイドのインド人がいた。すでに空港着陸して１時間経過していた。

空港からホテルまで１５ｋｍだがラッシュアワーと重なり５０分かかった。車窓から野生の牛が道路の横を徘徊しているのに驚いた。ガイドによると乳が出なくなった牛は放置される。都市周辺には食糧は多いので野生の牛が闊歩しているのだそうだ。牛は決して殺されない。ホテルは米国系の Radisson Hotel だった。巨大でホテル内には小さな公園があった。そこで遅い夕食を取った。（写真参照）ツアーガイド（以下ガイド）は流暢な日本語とインド史に詳しいインテリだった。ガイドからインドの概要と注意を受けた。信号で自動車を待っていると子供が土産売りに来るので目を合わさないこと。生野菜を控えること。飲料水はペットボトル入りの水に限ると示された。これは旅行中の下痢を防ぐ必要があるので厳格に守った。インドルピーは約２円とのこと。ガイドはシーク教徒で髪と体毛は生まれてから

切ったことがないとのことだ。ターバンはシーク教徒の証だが、その他のインド人はターバンを巻いていない。またマスク付けた人は全くいなかった。

３，　デリーからジャイプールへ（5 日）

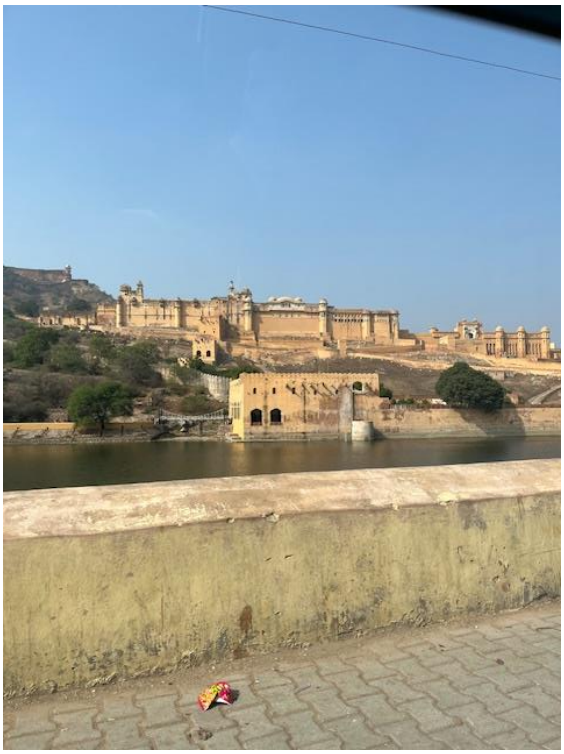
朝食はバイキングだったがメニューは少なかった。昨年旅行したイスタンブールのホテルが☆５つならここのホテルは☆２つぐらいだ。そして生野菜を除くと圧倒的にインド風料理のオンパレードだった。和食がないのは納得だが中華料理がないのは驚いた。この傾向は３日間の全てのホテル朝食でも同じだった。因みにインド国内にはチャイナタウンはないそうだ。

７；３０　タクシー（ハイヤー）に乗って運転手、ガイド、友人との４人で巡る旅が始まった。HIS はまだインドバスツアーを企画していない。今回 HIS ツアーには８人参加していたので４台のタクシーで観光地を巡ることとなった。このタクシー利用が合理的であることはジャイプールの観光でわかった。

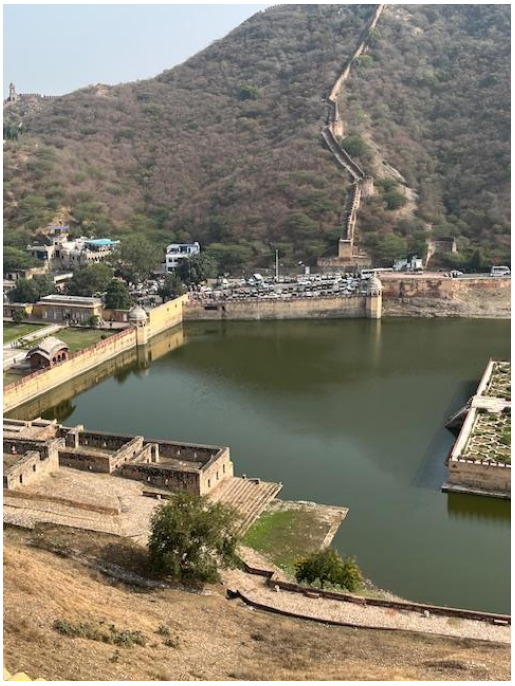
デリー市街を出るだけで１時間弱掛かった。そこから高速道路に入ったがインドの高速道路は２種類あることがわかった。インド型高速道路には野生の牛が出てくるのだ。道路側面に遮蔽物がないので精々６０ｋｍ程度の速度で周辺を注意しながらの運転だった。インド名物の三輪自動車には多数の通勤客が乗車していた。バイクには 3 人乗車していた。（写真参照）

ジャイプールまで３１０ｋだが５時間半掛かった。この間にトイレ休憩がありインド名物のチャイを飲んで一服した。デリー市街はスモッグが酷いのは事前情報通りだった。原因は産業排気ガスと自動車排気ガスだが、郊外でもスモッグがあった。その原因は野焼きだ。

午後１時頃にジャイプール市内に到着、山の上に「アンベール城」が見えてきた。市街中心部から１１ｋ北東なので立ち寄ることにした。（写真参照）

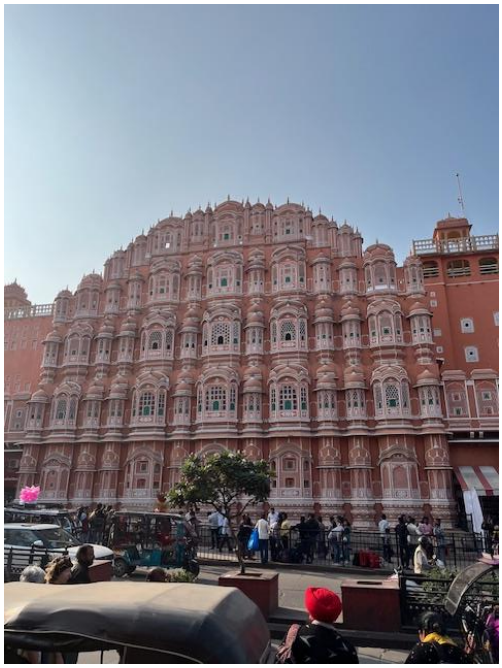


城の裏門から殆どの観光客が入るが、そこまでの路が狭くバスは通行不可だ。しかし我々のタクシーは小型なので裏門近くの駐車場に入れた。バスは城の手前の大きな広場で下車する必要がある。そこから歩くか小型ジープに乗り換える必要がある。因みに象に乗って表門から入る方法もあるがその利用者は非常に少ない。城内は広い。そしてアンベール城は万里の長城のように山頂に連なっていた（次項写真参照）



この城からの眺めは最高だった。城内には猿が多かった。猿も牛や象と同じく神の化身と言われている。

ランチは１４時頃に市街地で済ませた。そしてジャイプールの「風の宮殿」、「シティパレス」、「天文台」を見学した。（写真参照）これらも世界遺産に登録されている。特に天文台はムガール帝国時代に５つ建設されたが、ジャイプール天文台（1728 年建設）が現存する最大のものだ。精密な日時計と星座観測施設であった。

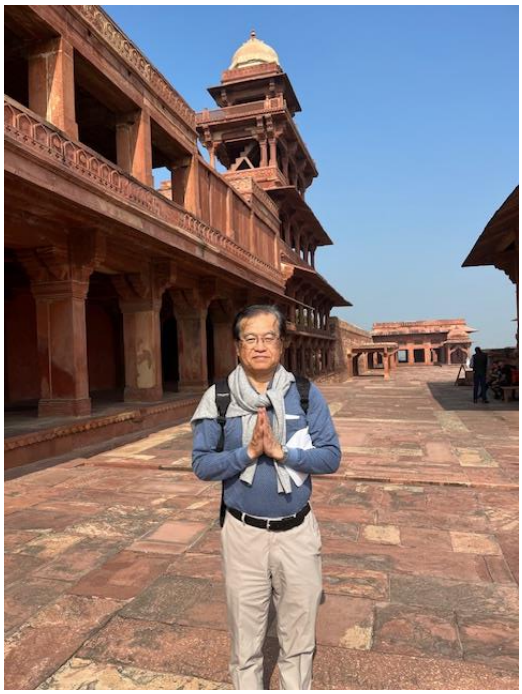


ガイドによればインド人は概ね日本と日本人に尊敬と愛着があるそうだ。1941 年のインパール作戦でインド国民軍の司令官だったチャンドラボースは有名でデリーのインド門に銅像がある。日清日露戦争勝利の歴史的事実もしっかり中学で教育されている。日本でも第 2 次世界大戦の東京裁判でインド人のハル判事が無罪を主張したことも有名だ。この判事は靖国神社の中でしっかりと祭られている。

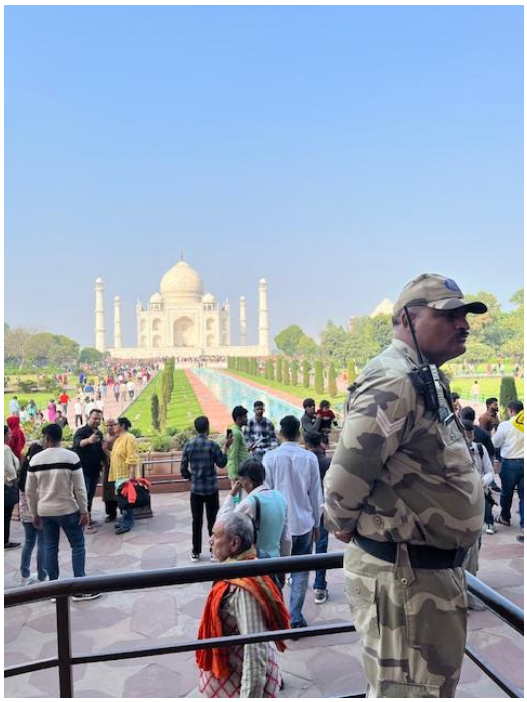
夕方アユールベーダというインド名物のマッサージを受けた。油を頭の上から流されるときは緊張したが施術後はすっきりした気分になった。そのあと遅い夕食は民族舞踊付きだった。インド生産のキングフィシャービールを飲みつつ贅沢な夕食を頂いた。（写真参照）

４，ジャイプールからアゴラへ（6 日）

アゴラまで２６０ｋだが 5 時間かかった。ガイドによればアゴラはイスラム教徒が多い。そしてイスラム教徒は女子教育に熱心でなく学校に行かせない親が多いそうだ。インドは 6，3，3，3 制の教育で小中は義務教育だ。大学は 3 年制だ。識字率は９９％だがイスラム教徒の比率は先の理由で低いとのことだった。因みにガイドはシーク教徒でデリー大学卒だった。アゴラまで３７ｋ離れた場所にある「ファーティプル・スイークリー」という城に立ち寄った。この城の周辺には野生の牛が寝そべっていた。（写真参照）



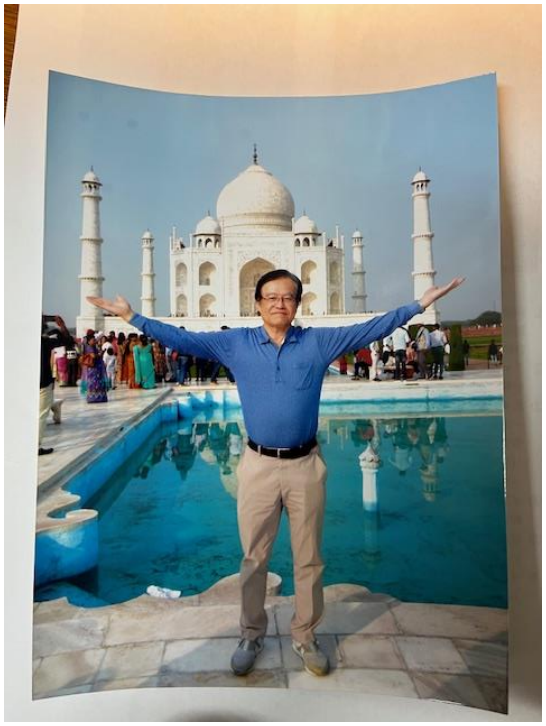
この城建築の経緯は面白い。１６世紀後半統治者のアクバル３世は男子に恵まれなかった。そこでここに住む聖者の占いを聞き、その教えで男児（第 4 世）を得た。これを機に首都をアゴラからこの地に移転 14 年間住んだ。この城もまた広大だった。ここは城近くの駐車場に停車し小型バスで城内に入った。昨日同様にムガール帝国様式で赤い煉瓦造りの宮廷と芝生と池の庭園が美しかった。

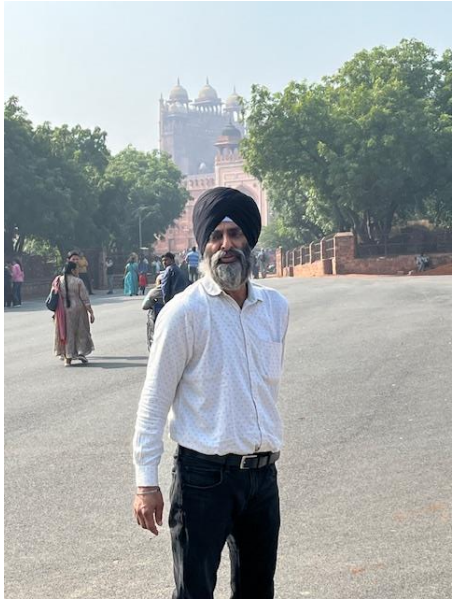


午後 2 時、今回旅行のクライマックスである「タージマハール」についた。午後の鑑賞がベストとのことだ。午前は霧とスモッグで霊廟が美しく見えないそうだ。入場ゲートは大変な混雑だった。しかし外国人と国民とは別料金（注）で外国人である我々は余り待つことなく入場できた。（注；外人は２６００Ｒでインド人は５０Ｒ）

タージマハールはムガール皇帝 5 代のシャージャーハーンが愛する妃の願いを聞き建造した。因みに第 5 代の治世はムガール帝国の最盛期でアゴラとデリーに豪奢な宮廷や

モスクを建造した。タージマハールには２時間ほど滞在した。ここでプロの写真家に記念写真を撮ってもらった。（写真参照）



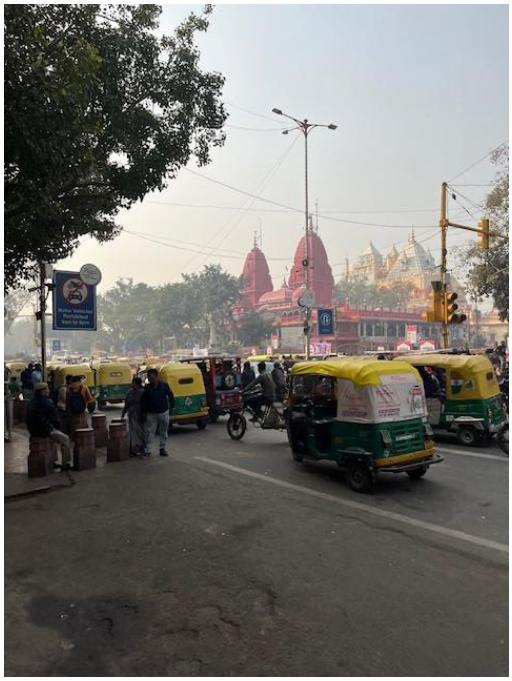


夕方にアゴラ市街中心部にある「アゴラ城」を見物した。この城にシャージャーハーンな晩年幽閉される。４世は父の治世に不満だったそうだ。ガイドの後方がアゴラ城である（写真参照）

夕方インド物産店で大理石の皿やデスクなど工芸品を見学した。インドの大理石は中国産やメキシコ産より硬くて美しいそうだ。（写真参照）

５，アゴラからデリーへ（7 日）

デリーまで２１０ｋだが、日本型高速道路（道路の両脇が壁で遮断）なので平均時速８０ｋで走行でき

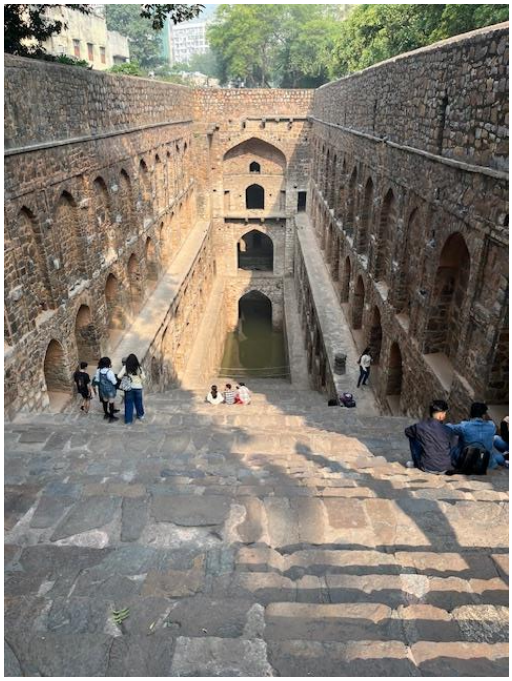


た。11 時頃に「ラール・キラー（レッドフォート）」の入り口に着いた。しかし入場は不可だった。（写真参照）

下車して写真だけ撮った。ここでインド独立の記念式典が毎年開催される。入り口前の通りはインド名物の三輪車で混雑していた。

次に「インド門」でチャンドラボースの銅像（赤い兵士）を見学した。

次に大きな「井戸」も見学した。デリー市内にはこのような井戸が多数ある。17 世紀には下水道がないので雨水を貯めて生活していたそうだ。



その後ランチをしてから、「ムマーユ廟」を見学した。45 分ほど見学した。ムガール皇帝の霊廟の一つでアゴラに建設したタージマハールのモデルになったといわれている。規模は小さいがよく似た作りになっている。デリーの観光名所となっている。

最後の観光地はクトッブミナールである。ここは 12 世紀頃イスラム教徒がヒンズー教徒に初めて勝利した記念の建築物だ。最古のイスラム遺跡群である。（次項写真参照）

６， その他雑感

① インド茶は有名だ。アッサム、セイロン、ダージリンなど有名銘柄の紅茶を購入した。そして宝飾品も名産だ。ダイヤ、金、ルビーなど宝飾業の裾野は広い。

② チャイナタウンがインドにはない。過去訪問した外国で始めての経験だった。ホテルやレストランでも中華料理が極めて少ないのも驚きだった。アジア覇権国の文化的対抗意識なのか。

③ 北インドにはイスラム教徒が多く南インドにはヒンズー教徒とキリスト教徒が多いそうだ。カースト制度に関連して、南が発展したのは低いカーストの子弟が数学など理系教育で優秀な人材が多いことが一因とのことだ。インド技術大学（IIT）は今や世界的に有名だが、南インドに集中しているとのことだ。

④ インドの自由民主主義制度は盤石のようだ。この統治の正統性は公正な選挙制度にある。インド版マイナンバーカード「アーダール」は既に 94%普及し定着しつつある。このカードシステムは不正な選挙防止にも貢献しているようだ。

⑤ 経済成長が軌道にのったのは最近１０年余である。モディ首相（インド人民党）のリーダーシップが大きい。来年４月～５月に総選挙がある。モディ首相３期目の選挙だがほぼインド人民党が優勢で３期目の首相就任は確実とのことだ。

⑥ インド独立に関連しインパール作戦で日本軍が大きく関与した。チャンドラボース率いるインド国民軍の功績は高く評価されている。インド門には彼の銅像があった。中韓のような反日歴史教育もなく日本を正しく評価しているそうだ。東京裁判のパル判事の事績もあり日印友好関係の歴史的基盤は強い。日印友好関係の益々の発展を期待したい。

以上